

# 医療現場からみた小中学校等の 通級による指導の課題と期待

2022/09/09 通常の学級に在籍する児童生徒への支援の在り方に関する検討会議

小枝達也

国立成育医療研究センターこころの診療部

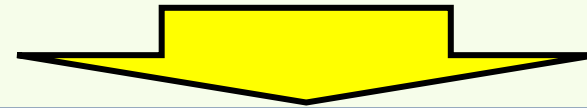
1984-1998	医師としての研鑽	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 一般の小児科</li> <li>• 小児神経疾患 (てんかん、脳性麻痺、重症心身障害児、急性脳症、知的障害、発達障害、心身症、子ども虐待)</li> <li>• 新生児・未熟児医療</li> <li>• 神経内科(成人の失語症)</li> </ul>
1998-2015	教育学部系に在籍	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 特別支援学校教諭免許状(専修、一種、二種)</li> <li>• 幼稚園教諭免許状(専修、一種、二種)</li> <li>• 保育士養成</li> <li>• 付属小学校校長</li> <li>• 医療も続ける</li> </ul>
2015-現在	医療者・病院管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>• こころの診療部</li> <li>• 発達障害、心身症、不登校、子ども虐待、神経症など</li> <li>• 若手医師の教育、病院機能評価担当副院長</li> </ul>

- 子どもの心の診療の概要
- 医療から見た学校不応
- 特別支援教育導入後の学校の変化
- 医療から見た学校の居場所

# 「子どもの心の診療医」の養成に関する検討会報告書

厚生労働省母子保健課（2007/3/30）

こころの問題を持った子どもと家族



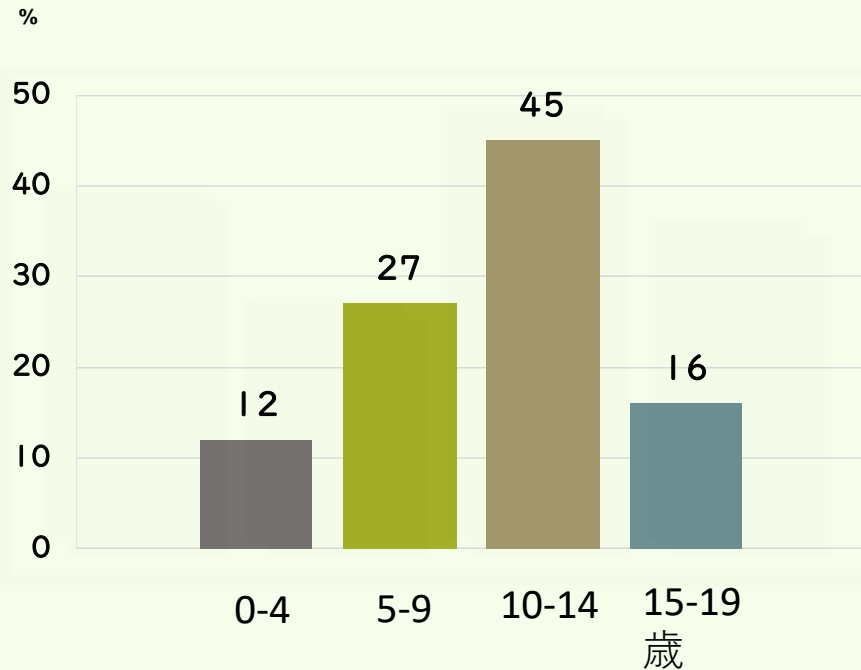
1. 一般の小児科医・精神科医

2. 子どもの心の診療を定期的に行っている小児科医・精神科医

3. 子どもの心の診療に専門的にかかわる医師

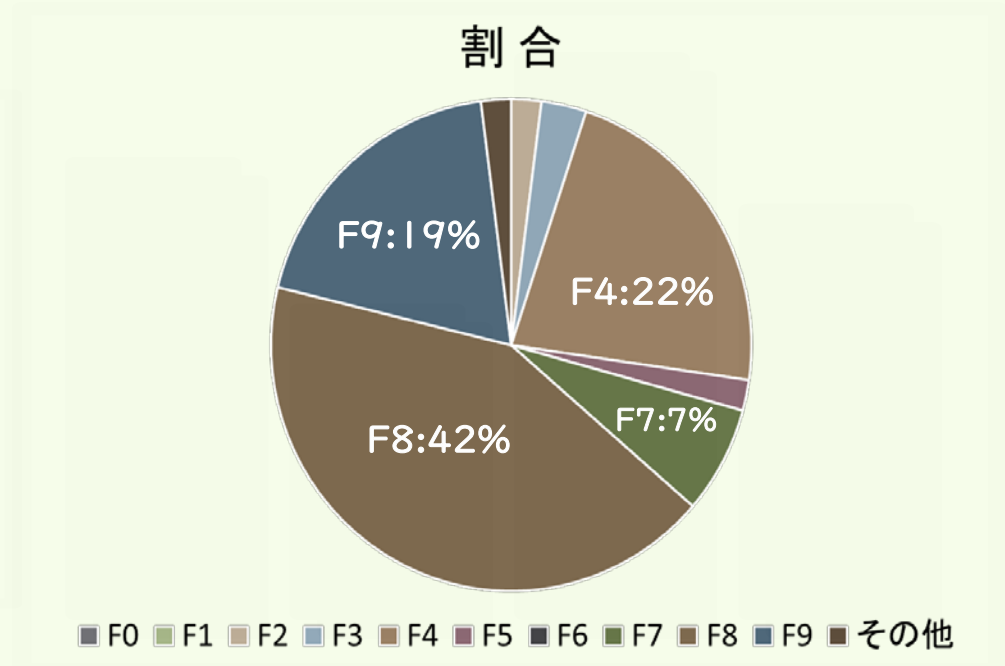
# 子どもの心の診療の実態

## Q1.初診の年齢は？



平均初診年齢 11歳±4.4  
男:女 = 6:4

## Q2.診ている疾患は？



F8:心理発達の障害  
F4:神経症・ストレス・身体表現性障害  
F9:情緒および行動の障害  
F7:知的障害

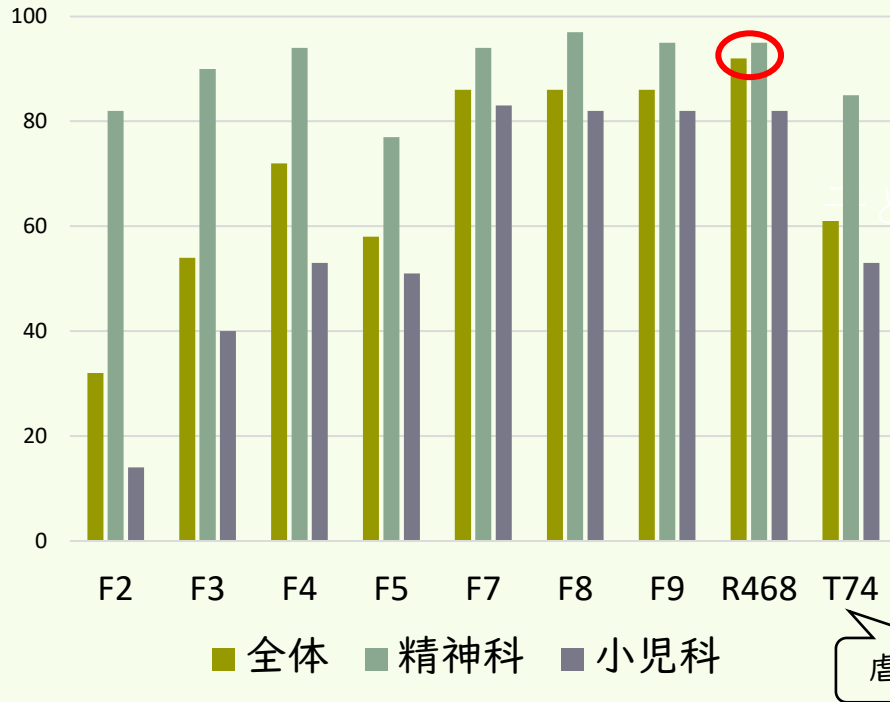
計90%

# 子どもの心の診療の実態

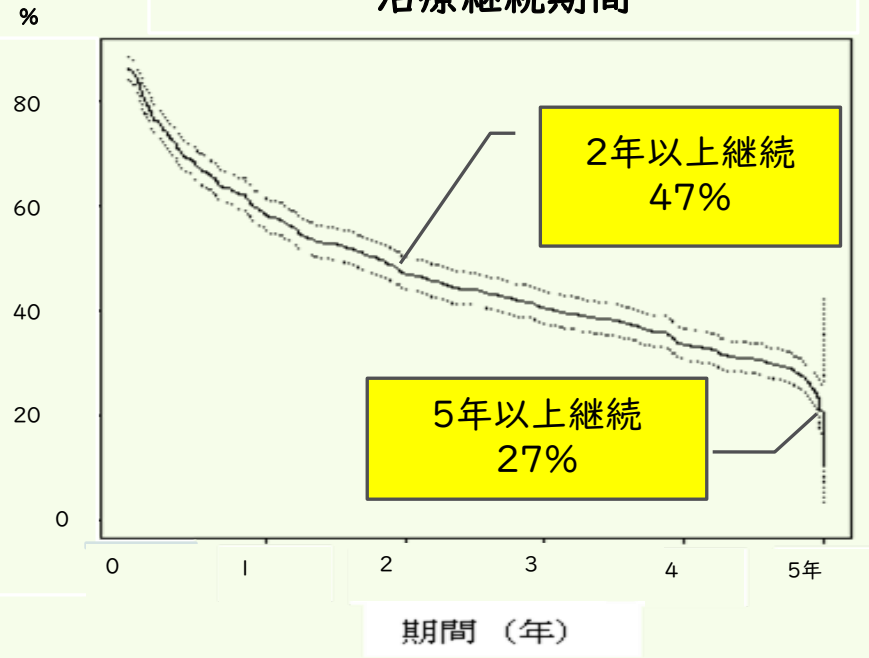
Q3.診療の対象としている疾患は？

Q4.診療の継続期間は？

診療対象疾患



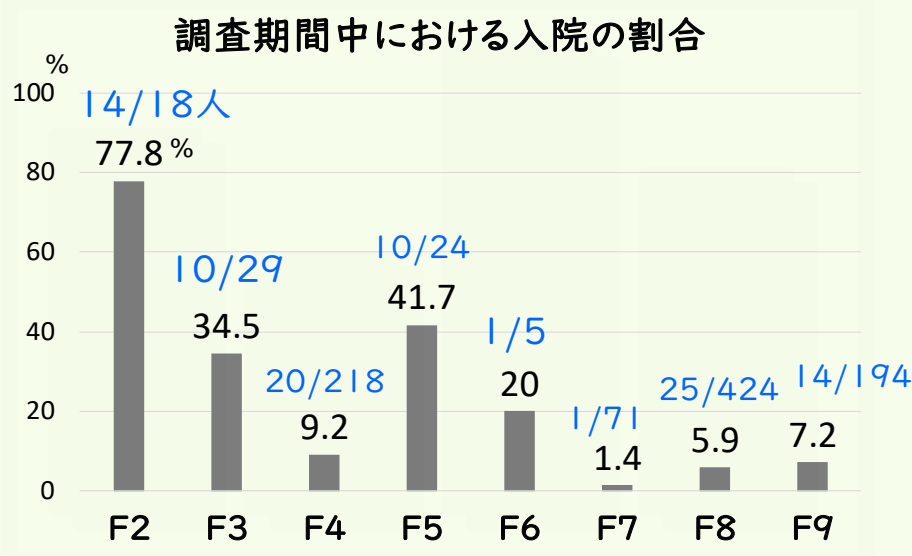
治療継続期間



R468: 不登校がもっとも多い

# 子どもの心の診療の実態

## Q5.入院が多い疾患は？



F2:統合失調症  
F5:摂食障害  
F3:気分障害

入院割合が高い

## Q6.他の機関との連携は？

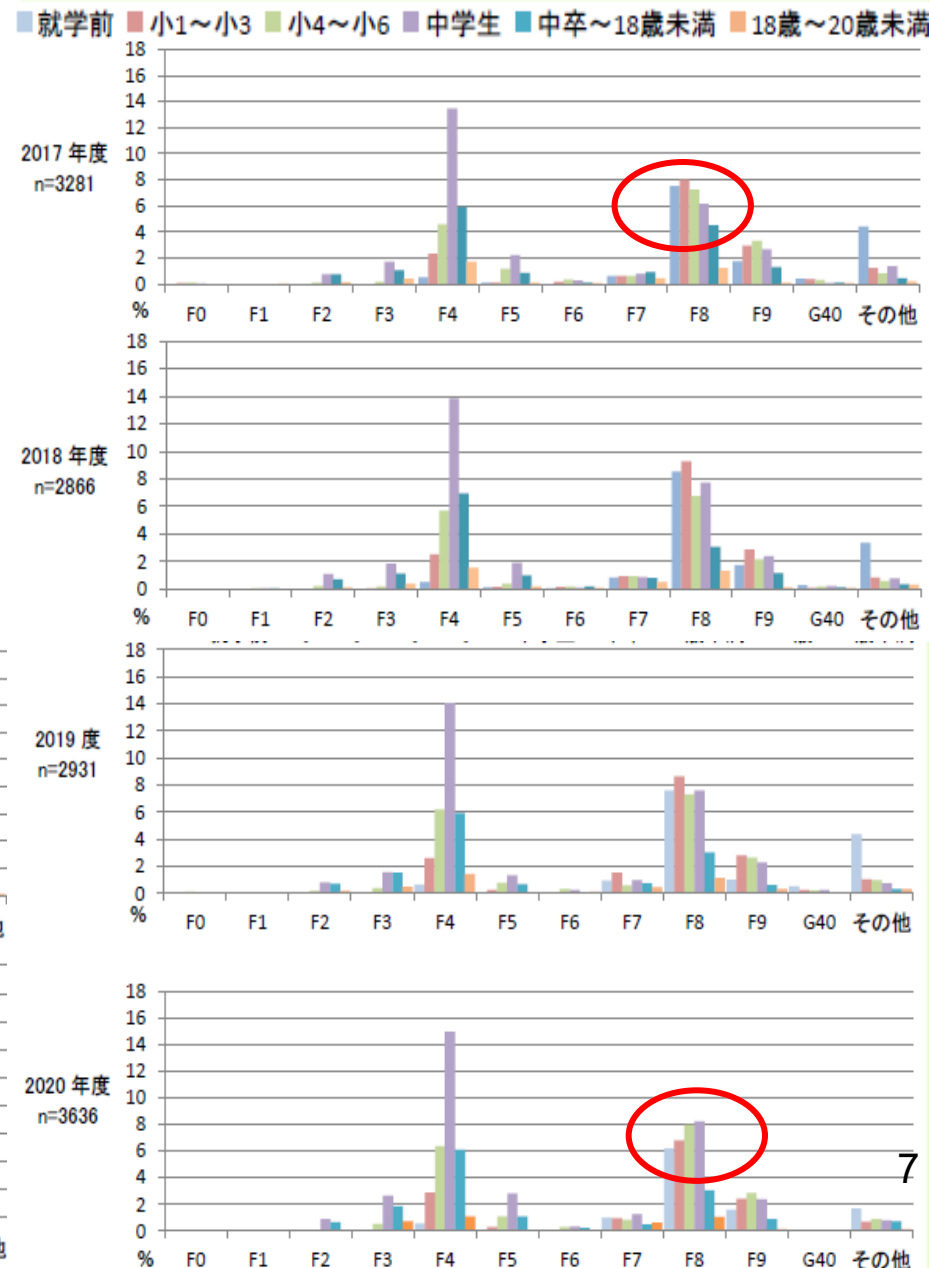
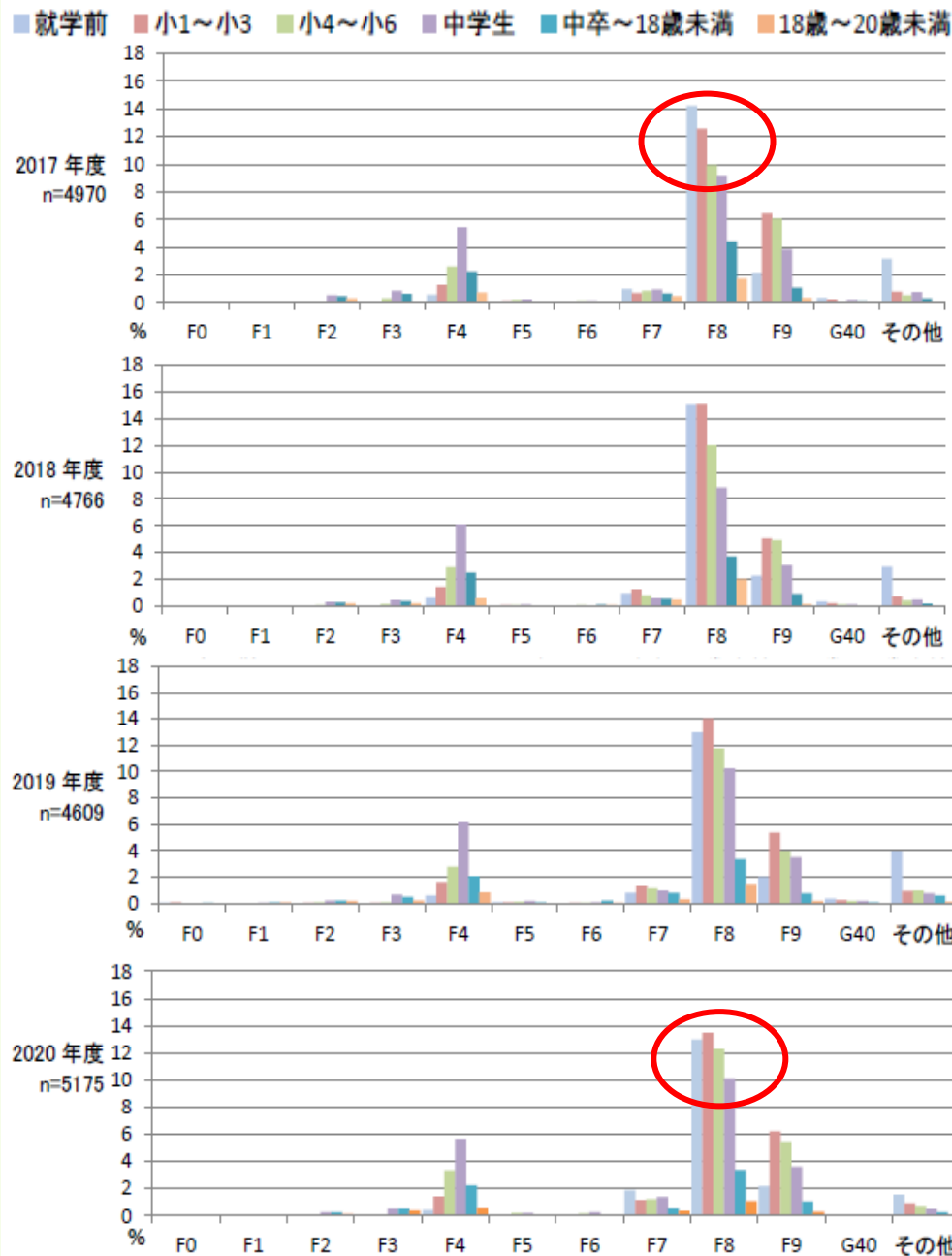
連携先	連携の割合
教育機関	46%
福祉機関	44
保健機関	5
他の医療機関	22
司法	1
その他	6

教育、福祉との連携が多い

(子どもの心の診療ネットワーク事業 2020年度指標調査結果)

外来初診男児

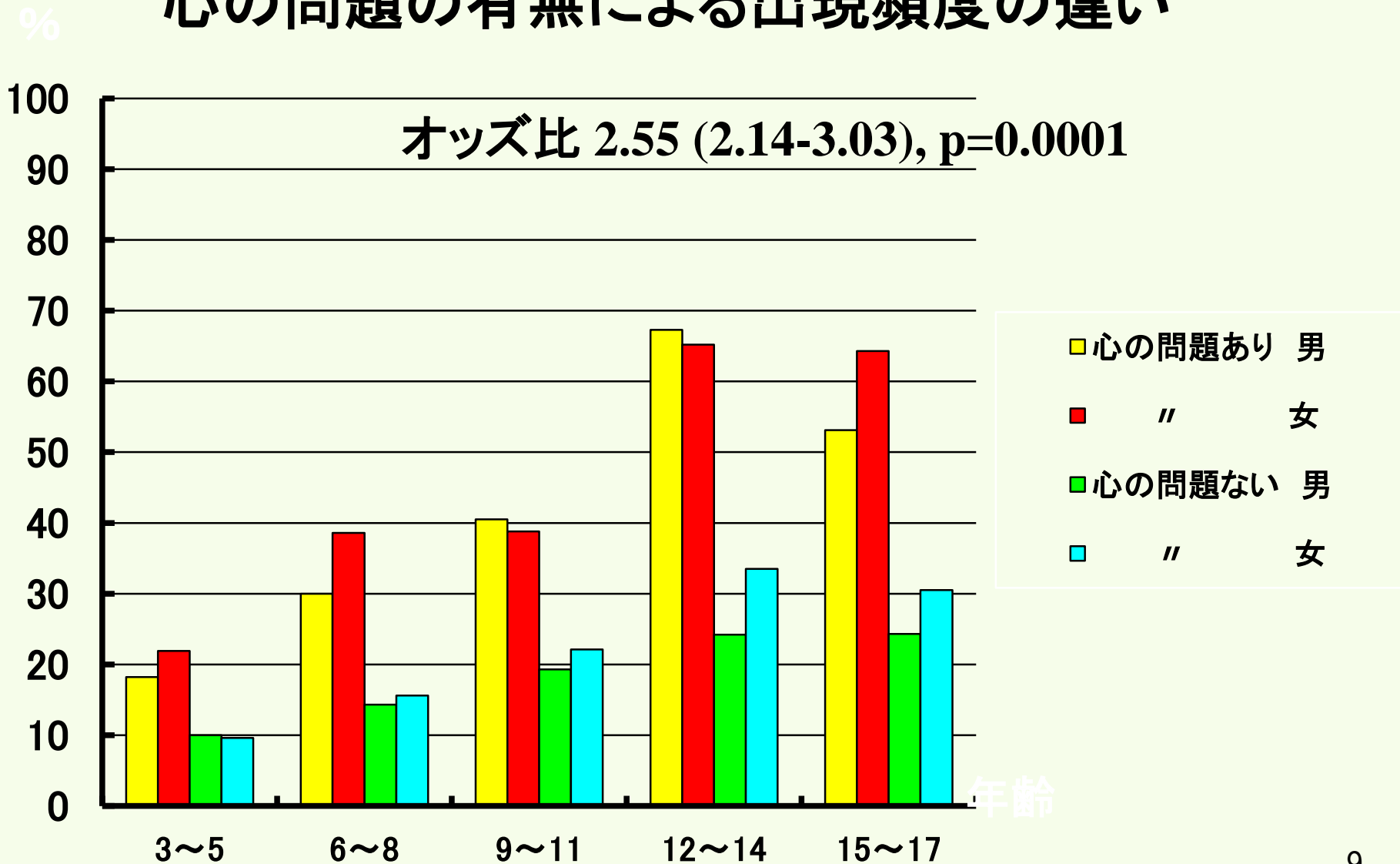
外来初診女児



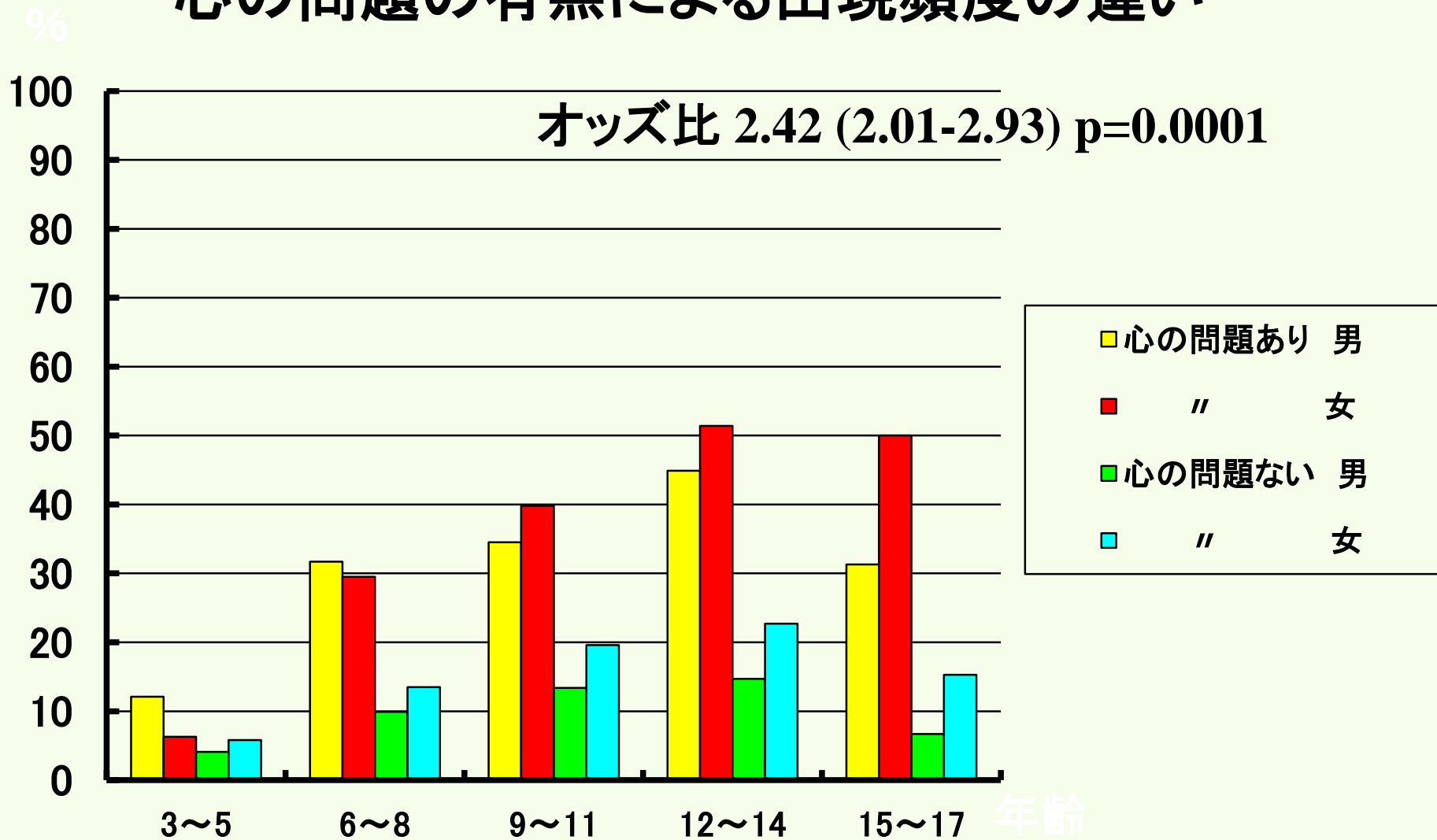


- 子どもの心の診療の概要
- 医療から見た学校不応
- 特別支援教育導入後の学校の変化
- 医療から見た学校の居場所

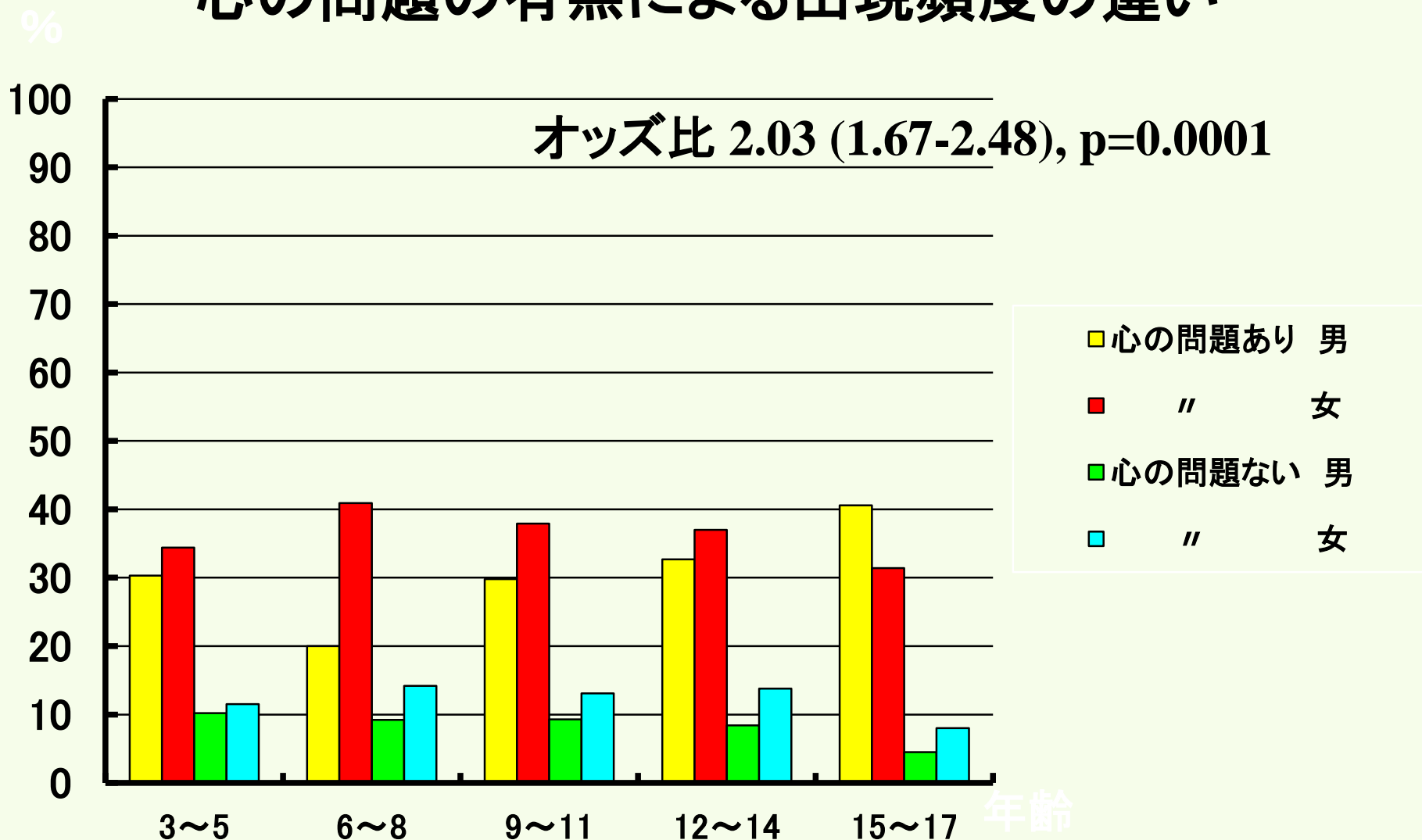
# 「だるい、疲れやすい」 心の問題の有無による出現頻度の違い



# 「頭が痛い」 心の問題の有無による出現頻度の違い

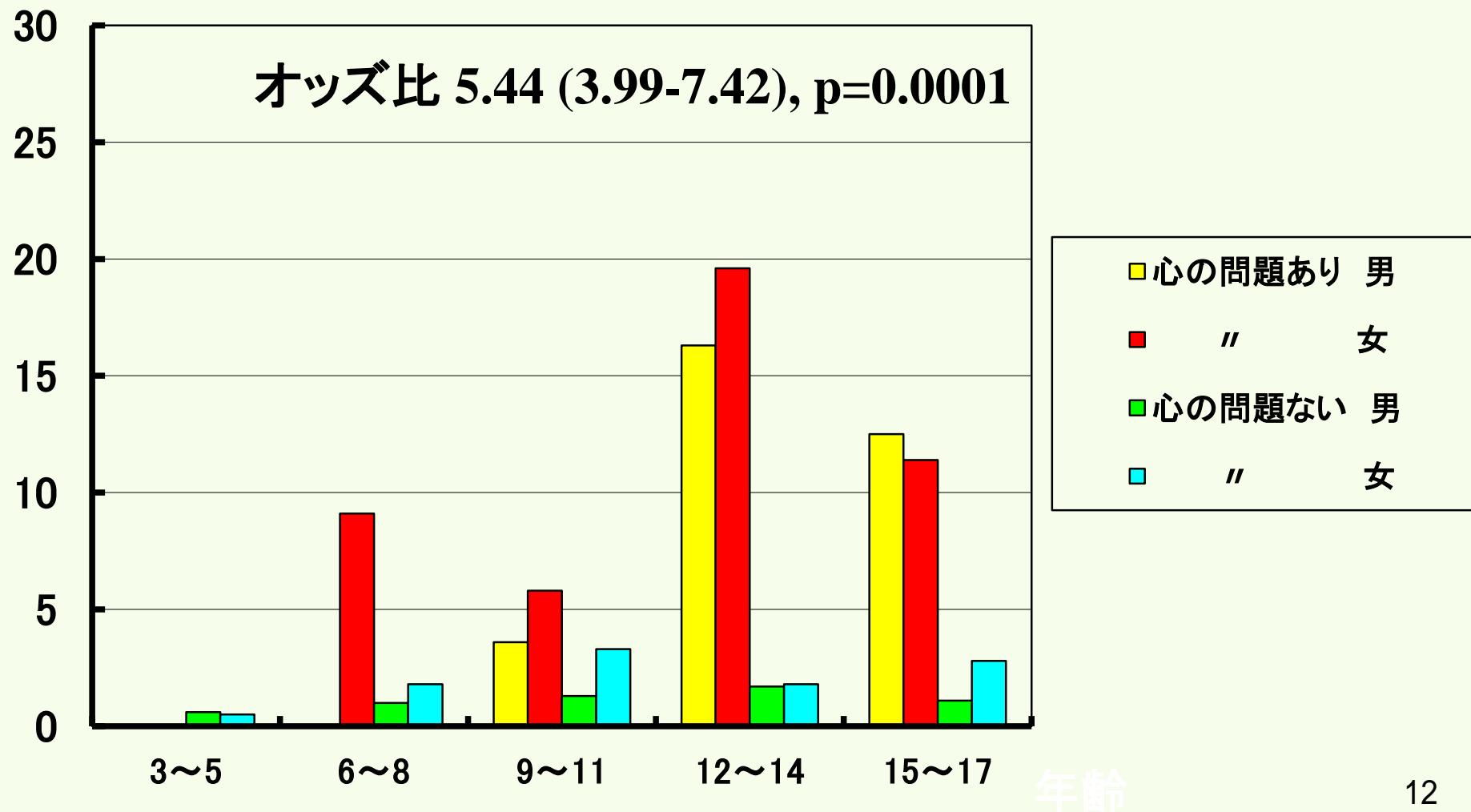


# 「お腹が痛い」 心の問題の有無による出現頻度の違い

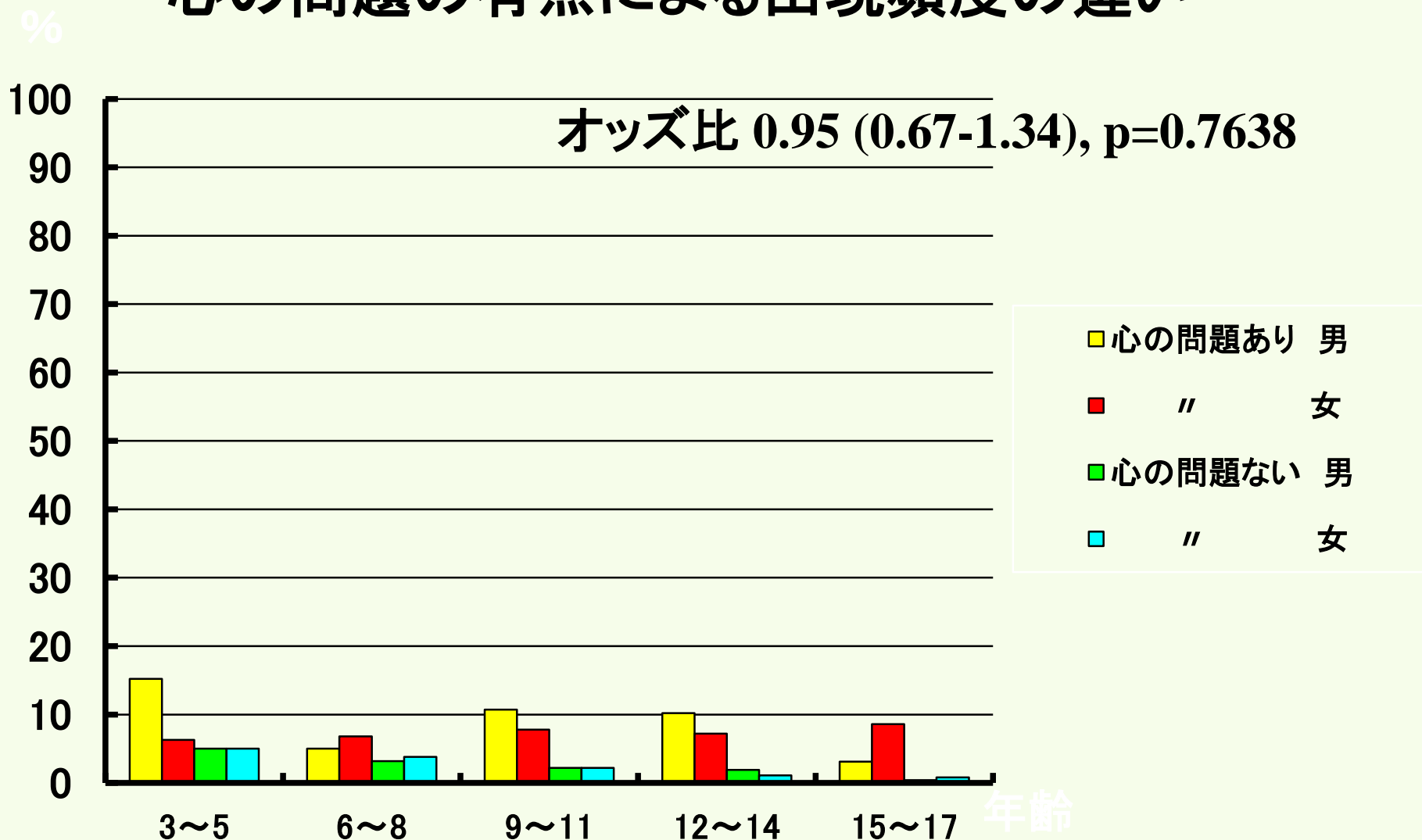


# 「だるい」「頭痛」「腹痛」の三症状の出現頻度 心の問題の有無による検討

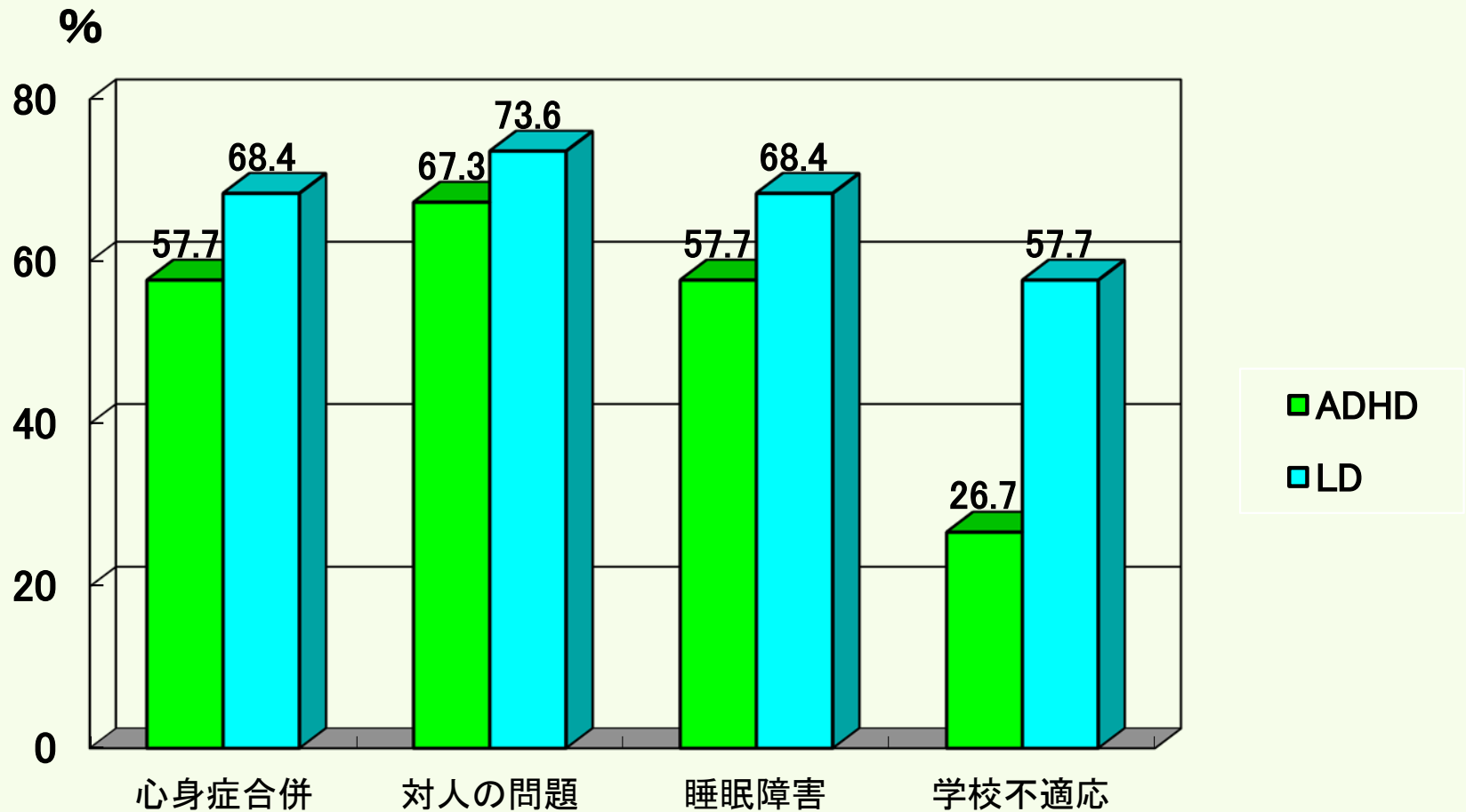
%



# 「吐く」 心の問題の有無による出現頻度の違い



# 二次的に派生してくる問題点 (病院調査)



- 子どもの特性に対する気づきの遅れ
- 保護者も、教師も一生懸命
- だけど、その子に対する一生懸命の方向が違っている
- 子どもにすれば、“追い詰められた”となる  
それが不安、不安全感、不信感につながる
- そして、不登校/保健室登校



- 子どもの心の診療の概要
- 医療から見た学校不応
- 特別支援教育導入後の学校の変化
- 医療から見た学校の居場所

## 特別支援教育開始後の変化(私見)

- 子どもの問題が「教室から校内へ」出るようになった
- 特別支援教育コーディネーターの校務分掌化
- 学校管理職の理解の浸透
- 教師の相談相手ができる
- 特別支援学校のセンター化  
⇒ 園・小・中学校との連携

- 子どもの心の診療の概要
- 医療から見た学校不適應
- 特別支援教育導入後の学校の変化
- 医療から見た学校の学びの場と居場所

# 通級指導教室に期待すること

「みんなが同じじゃないとダメ」と言う先生が減った  
ただ、具体的にどうしたらいいかをあまり知らない

例1

ディスレクシア  
音読の評価法  
音読指導アプリの提供  
通級指導教室での学び

## 音読指導プログラム統合版



鳥取一郎

ひらがな  
直音

ひらがな  
単音

カタカナ  
直音

カタカナ  
単音

結果

鳥取花子

ひらがな  
直音

ひらがな  
単音

カタカナ  
直音

カタカナ  
単音

結果

「ひらがな」「カタカナ」ボタンをタップすると指導プログラムが開始されます。「結果」ボタンをタップすると過去の履歴が表示されます。

新しい音読指導のウェブサイト

URL: <https://www.t-ondoku.com>



## 例2

### ➤ 社会的（語用論的）コミュニケーション障害

社会的コミュニケーション障害

### ➤ 自閉スペクトラム症

社会的コミュニケーション障害

興味・関心の偏り

## 社会的（語用論的）コミュニケーション障害

### 社会的コミュニケーション障害

- ≡特異的言語発達障害
- 行間にある意図が読めない
- 「比喻・皮肉・疑問形で叱る」が分からない
- 勘違いをして、他者とトラブル

**通級指導教室でロールプレイを！**

# 学びの場としての通級指導教室



教える引き出しを増やしてほしい

# 通級指導教室の課題

## 学校における学びの場と居場所

### 学びの場

- 特別支援学校
- 特別支援学級
- 通級指導教室
- 教育支援センター

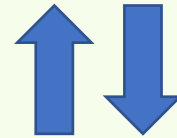
### 居場所

- 教育支援センター



特別支援学校

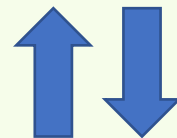
必要な学びの場は設置



往来を可能に

特別支援学級

もっと柔軟に



通常学級・通級指導教室

通級にしか行けない子がいる

居場所



学びの場

# 学校における学びの場と居場所

## 学びの場

- 特別支援学校
- 特別支援学級
- 通級指導教室
- 教育支援センター

## 居場所

- 特別支援学校
- 特別支援学級
- 通級指導教室
- 教育支援センター

小・中学校別がいい

## 鳥取県内

- 5歳児健診・・・ほとんどの子は通常学級へ
- 布置の力が身についていない子は特別支援学級（情緒障害等）へ
- 布置が備わり、見通しが持てると通常学級へ

すくすくコホートの成果

俯瞰してみる力

学校はゆりかご

# 布置の力とは

## 幼稚園教育要領解説本に掲載

### 序章 第2節

#### 1. 幼児期の特性

また、幼稚園における生活の流れが把握できていないと、幼児は、今日の前で起きていることにとらわれ、やりたいことができないとなく、怒るなどの情緒的な反応を示すことがある。幼稚園生活の中で、活動の区切りに教師や友達と共に振り返りの経験を積むことや教師が適切な言葉掛けをすることなどにより、幼児は徐々に過去と今、今と未来の関係に気付くようになり、活動の見通しや、期待が持てるようになっていく。

## 東京都内

- すべての小中学校に通級指導教室!
- 最近、情緒障害の特別支援学級ができ始めた
- 情緒障害学級に居場所を得た子どもたちは、  
見違えるように元気になり、楽しんで登校
- 「病院へ行くから学校を休める!」  
⇒「学校があるから、病院へは行かない」

**居場所のある学校は  
宝船**

## 医療者としてお願いしたいこと

- 就学支援委員会で揃える書類
- 通級指導教室の適否の判断

## 診断書

なくしていただきたい

記者の眼



## 「うちの子、ひらがなが読めないんです」と言われたら

2022/08/31

宇佐美 知沙 = 日経メディカル

全体的な発達の遅れはないが、文字の読み書きに困難がある**ディスレクシア（発達性読み書き障害）**。文部科学省の調査によれば、知的発達に遅れはないものの「読む」または「書く」ことに著しい困難を示す小中学生は2.4%とされる。ディスレクシアの診断や治療に長きにわたって取り組んできた、国立成育医療研究センター副院長でこころの診療部統括部長の小枝達也氏は、このほどディスレクシアの子どものための「音読指導アプリ for Web」の提供を開始した。

ディスレクシアの根本的な原因は、文字とその読み方をスムーズに対応させられないこと（**解読障害**）。目の前の文字の読み方を思い出すのに時間がかかって疲れてしまうために読書が嫌いになり、「さりげなく」「たちまち」などの文章独特の語彙を習得できなくなった結果、授業についていけなくなってしまう。小枝氏は「これらの問題に対処するためには、『ひらがなを楽に読めるようになるための指導（解読指導）』と『語彙を身につけるための指導（語彙指導）』の両方が必要。ただ読めるようになっただけでは読解の力はつきにくい」と、まずひらがなを「速く楽に確実に」読めるようにして、その上で語彙を身につける2段階方式による音読指導の重要性を強調する。



国立成育医療研究センター  
の小枝達也氏

「音読指導アプリ for Web」は、2段階方式による音読指導のうち、解読指導に使用できる無料サービスだ。ひらがなあるいはカタカナが画面に表示され、少しするとその音声流れる。音声より前に正しく読めたら○を、読めなかったら×をつけていくと、正答が続いた文字は次第に表示されなくなる仕組みだ（**写真1**）。習熟度に合わせて、文字の表示から音声流れるまでの時間を2.5秒、2秒、1.7秒の3段階で調整できる。



写真1 「音読指導アプリ for Web」の画面  
特定非営利活動法人ASridが2022年6月に提供を開始した。

本サービスの特長について小枝氏は、「保護者や指導経験の浅い教師でも効果を出せるようになっていること」と説明する。開始前の画面には「×をタップすることは、次に練習するチャンスを残すことだとお子さんに伝えてください」というアドバイスも示されている。筆者も試してみたが、効果音などのない非常にシンプルな作りとなっているため、続けてもらうには指導者の声かけが重要そうだと感じた。1日5分の練習を継続すると、1～2カ月で効果が表れるという。

一方、語彙指導は「教科書から単語を抜き出し、その読み方や意味を教え、例文を考えさせる」というプロセスが必要なため、障害のある子どもの支援を手掛ける通級指導教室などの教育現場での対応が望ましく、1年ほどの期間も必要となる。ただ、保護者にできることがないわけではない。「ひらがなが読めるようになったら、語彙を増やしていくのと同時に、本を好きになれるように働きかけることが大切になる」と小枝氏は言う。この場合の「本」は、漫画が適しているようだ。絵が多いためストーリーを追いやすく、漢字の読み方も書いてあることが良いらしい。「読み聞かせ＝絵本」と思い込んでいた筆者にとって小さな驚きであった。

### 「読み」の問題を解決しても残る「書き」の問題

ディスレクシアの子どもが「読み」の問題と同時に抱えているのが「書き」の問題だ。小枝氏によると、サービスの活用や語彙を身につけるための指導で読解力の問題が改善しても、漢字を書くことに対する困難さが残る子どもたちがいる。「書けない子どもでも、表示される同音異義語の中から正しいものを選択することはできるため、キーボード入力は有用だ。だが、通常の学校の授業ではキーボードの使用は許されず、自分の手で漢字を書かないといけない」と小枝氏は現状の課題を指摘する。

確かに漢字の練習は宿題の定番だったし、漢字テストも多かった。ディスレクシアの子どもにとっては授業中の板書をノートに写すことも大きな負担だろう。2016年4月に施行された障害者差別解消法では障害のある人への合理的配慮を求めている。実際、教材や試験問題にふりがなを記載する、試験の時間を延長するといった合理的配慮を受けた児童や生徒の話を目にする機会が増えているが、まだ対応が追いついていない現場も多いと聞く。

「ディスレクシアは子どもの社会進出や自己実現の大きな妨げとなる。支援の目的はその障壁を軽減し、得意分野を伸ばせるようにすること」と小枝氏。ディスレクシアの子どもや保護者、そして教育現場に必要な情報が届くことはもちろん、ディスレクシアは本人の勉強不足によるものではないことを社会が認識し、彼らが少しでも読み書きの困難に阻



まれずに自信を持って生きていけることを願う。

日経メディカル Online 2022年8月31日掲載

<https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/eye/202208/576387.html>

© 2006-2022 Nikkei Business Publications, Inc. All Rights Reserved.